

一般社団法人大学英語教育学会（JACET）中部支部 2020年度春季定例研究会プログラム

日時： 2021年3月6日(土) 14時00分～17時30分

Zoom 開催

参加無料・事前予約制

参加方法：JACET 中部支部ホームページ (<http://www.jacet-chubu.org/reikai.html>) または、
<http://bit.ly/3okN5rB> より、事前に申し込みをお願いします（先着100名までとなります）。なお、申し込みサイト QR コードは本プログラム最終ページに記載しています。

開会挨拶 14時00分～14時05分 支部長 石川有香（名古屋工業大学）

研究発表 14時05分～15時35分

1. 研究発表 司会 木村友保（名古屋外国語大学名誉教授）

Chinese College English teachers' attitudes toward CALL-based teaching materials
XING Yun (Nagoya University, Graduate Student)

2. 実践報告 司会 藤原康弘（名城大学）

インタラクティブな遠隔英語授業に必要な要素とは

島崎浩子（静岡大学大学院生）

3. 実践報告 司会 吉川りさ（名古屋工業大学）

ハイフレックス型による英語授業の実践と課題

松家鮎美（岐阜女子大学）

研究会研究発表 15時45分～16時35分 司会 小宮富子（岡崎女子短期大学）

【国際英語と異文化理解研究会】

4. 正確さ重視の評価と汎用性重視の評価の関係—「国際英語論」の視点からの評価を考える
塩澤 正（中部大学）

5. 日本の多言語社会化で生じる問題と英語の役割

吉川 寛（中京大学）

講演会 16時40分～17時20分 司会 石川有香（名古屋工業大学）

ウィキペディアと大学の英語教育

北村紗衣（武蔵大学）

閉会挨拶 17時25分～17時30分 副支部長 佐藤雄大（名古屋外国語大学）

発表概要

研究発表 14時05分～15時35分

1. Chinese College English teachers' attitudes toward CALL-based teaching materials XING Yun (Nagoya University, Graduate Student)

CALL (Computer-assisted Language Learning) has been used in school education, particularly for promoting students' language communicative abilities. With the spread of coronavirus in the world, normal face-to-face communication becomes difficult. Under this circumstance, CALL plays a key role in foreign language teaching and learning. Teaching materials are core elements for college English teaching. CALL-based teaching materials are available and inevitably attract attentions of language teachers. Teachers' attitudes toward CALL-based teaching materials are also important for college English teaching. This study aims to explore the attitudes of college English teachers toward the use of CALL-based teaching material *New Horizon College English*. Semi-structured interviews were conducted twice in 2016 and 2017 in Shanxi Province in China. The result showed that it seemed difficult for teachers to make use of the CALL-based teaching material effectively. Problems were discussed and suggestions were put forward for better English education in China. In this presentation, suggestions for English education in Japan will be discussed.

2. インタラクティブな遠隔英語授業に必要な要素とは

島崎治子（静岡大学大学院生）

本研究は、今年度の自らの遠隔授業実践について、量的・質的データを用いて分析することを目的とする。学生の成績に関して、前年度と今年度の平均に差があるかどうか、対応のない t 検定を用いて確認した結果、有意差は見られなかった。その要因を探るために、同僚による遠隔授業観察レポートと学生アンケートの質的データを用いた。レポートには、学生に考えさせ、答えさせる双方向型・参加型の遠隔授業を実現できていたという記述がある。更に客観的に分析するために、学生アンケートに関して、KHCoder3を用いてテキストマイニングを行い、共起ネットワークを出力した。計量テキスト分析の結果、インタラクティブな遠隔英語授業に必要な要素は、よく練られた教材、学生との rapport、Web 会議アプリを使った授業技術の3点、つまり、教材・学習者・教師の三者の中に存在することを発見した。

3. ハイフレックス型による英語授業の実践と課題

松家鮎美（岐阜女子大学）

本研究では、2年生を対象にした英語授業において、対面で行う内容を、オンライン（Zoom）で同時配信する「ハイフレックス型」の授業を実践した。この授業では、25名の学生のうち半数がオンラインで受講をしている。そこで、本研究では、各学生の学力調査と共に、意識調査を実施した。その結果、学力面では、対面で受講する学生の方がスコアの平均が高く、また情意面でも積極性が見られた。「ハイフレックス型」の授業については、学生の体調や、一人一人の環境に合わせた受講形態を支持する声が大半であった。だが、オンラインでは、受講中「たまに気が抜ける」という声が37%あり、オンラインでもいかに対面同様の緊張感を与えるかが課題である。

研究会研究発表 15時45分～16時35分

【国際英語と異文化理解研究会】

4. 正確さ重視の評価と汎用性重視の評価の関係—「国際英語論」の視点からの評価を考える

塩澤 正（中部大学）

正確さや母語話者英語を単一規範としない国際汎用性重視の英語評価項目には、情報量、流暢性、自然さ(自分らしさ)、調整力(ストラテジー)、課題達成度などが考えられる。本研究では、SpeakingとWritingを取り上げ、その中でも「流暢性」や「情報量」に的を絞って、従来の正確さ重視の評価との簡単な相関をとり、汎用性重視の評価と観点別評価がどのような関係にあるかを確認した。具体的には、1) 口頭面接とTOEICスコアの相関、2) 1分間即興発話の理解度と発話の文法・正確さ、発音の間の相関、3) エッセイライティングの内容重視の評価と文法・正確さの間の相関を測った。それぞれ $r=.65$ 、 $r=.96$ 、 $r=.78$ であった。その後、流暢さと正確さに大きな差がある被検者にインタビューし、評価者らとはデブリーフィングを行った。ここから出てきたことは、発話に関しては発音より語彙の大きさが汎用性に大きな影響を与えるのではないかという点である。反対に、エッセイに関しては、語彙より文法力や表現の豊かさが直接、汎用性に関係してくるかもしれないという点である。本発表では上記の数値の意味とインタビュー結果をさらに考察する。また、今後、汎用性重視の評価方法としてどのようなものが考えられるのか、考えてみたい。

5. 日本の多言語社会化で生じる問題と英語の役割

吉川 寛（中京大学）

多言語社会では異言語間の意思疎通をどのように確保するかという具体的な言語政策は極めて大きな問題である。日本も労働人口減少による労働力不足を補う「外国人労働者」の増加によって多言語社会化が進んでいる。現在、日本ではいわゆる「Japanese only」式の政策をとり、非日本語母語話者に一方的に負担を負わせ日本語習得を求めている。このような状況は言語権の公平性、平等性に反すると言える。日本語を共通言語として意思疎通を行えばあらゆる点で日本語母語話者が有利になるであろう。ひとつの共同体におけるコミュニケーションに関しては各自が平等に責任、負担をもって対応すべきであると考え。その解決策の一つとして英語を異言語間コミュニケーションの共通言語とする考えがある。本発表ではこの考えの妥当性、実現性を考察する。

講演概要

講演会 16時40分～17時20分

ウィキペディアと大学の英語教育

北村紗衣（武蔵大学）

講演者は2015年より、ウィキペディアを用いて大学で英語を教えるプロジェクトクラスを行っている。ウィキペディアは所定の手続きを踏めば他の言語の記事を翻訳して別の言語版の記事として公開することができるシステムになっている。講演者はこれを利用して学生に英語版の記事をひとつ選んでもらい、日本語に翻訳して日本語版ウィキペディアにアップロードするという授業を行っている。英語と情報リテラシー教育を組み合わせた授業である一方、基本的な手法としては古典的な英文和訳である。この授業を計画することとなったきっかけや、実施した際に発生した問題とそれに対する対処法、今後の展開などについて、大学の教育・研究とウィキペディアの一般的な関係にも目配りしつつ報告する。

【講師紹介】

北村 紗衣 （きたむら さえ）

武蔵大学人文学部英語英米文化学科准教授。東京大学で学士号及び修士号を取得後、2013年にキングズ・カレッジ・ロンドンにて博士課程を修了。専門はシェイクスピア、舞台芸術史、観客研究、フェミニスト批評。著書に『シェイクスピア劇を楽しんだ女性たち——近世の観劇と読書』（白水社、2018）、『お砂糖とスパイスと爆発的な何か——不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』（書誌侃侃房、2019）など。

事務局からのお知らせ

- ☆ 当日、第10回中部支部役員会（12：00～13：00）を行います。役員は中部支部ホームページより出欠をお知らせください。会議資料および会議場所 URL は別途お送りします。
- ☆ JACET 中部支部 2021 年度支部大会を 2021 年 6 月 12 日（土）にオンラインにて開催の予定です。研究発表募集は 4 月 1 日（土）より開始いたします。中部支部ホームページ <http://www.jacet-chubu.org/reikai.html> にて詳細をご確認いただき、「研究発表申し込み」のリンクより奮ってお申し込みください。

2020 年度春季定例研究会参加申し込み

<http://bit.ly/3okN5rB>



本定例研究会に関するお問い合わせは JACET 中部支部事務局までお願いします。

中部支部事務局：豊田工業大学 伊東田恵研究室内

tae@toyota-ti.ac.jp

☆ なお、JACET 中部支部事務局は 2021 年 4 月より交代します。

中部支部事務局（2021 年 4 月より）名古屋工業大学 吉川りさ研究室内 yoshikawa.lisa@nitech.ac.jp